

～デジタル活用による世界遺産平泉観光の価値向上～

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：ガイドシステムの周遊ログを活用した来訪者調査手法の試み

研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授 阿部昭博

課題提案者：平泉町観光商工課

研究メンバー：浅利真（平泉町観光商工課）

技術キーワード：デジタル化、観光振興、ポストコロナ、周遊データ利活用

▼研究の概要（背景・目標）

＜背景＞デジタルデバイス等を活用しながら恒常的に観光客の動態データ収集できる仕組みの導入が課題となっている。

＜目的＞周遊実態の把握を可能とする新ガイドシステムを運用し、周遊ログを活用したデジタル来訪者調査手法の構築を試みる。

▼研究の内容（方法・経過）

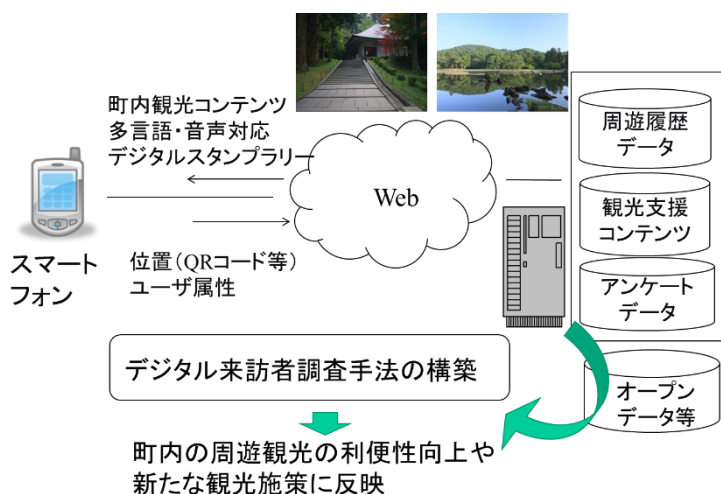
- 1.リニューアルした新ガイドシステムを導入し、本格運用した。
- 2.開館した岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンターなど、町内周遊拠点の現状を調査した。
- 3.観光協会の協力のもとガイドシステムを活用したスタンプラリーイベントを実施した。
- 4.利用状況を踏まえ、来訪者調査手法の構築に向けて取り組むべき課題を明らかにした。

▼研究の成果（結論・考察）

- 1.ガイドシステムによるスタンプラリーについては、周遊促進に対する一定の効果が示唆された。
- 2.周遊ログに基づき来訪者調査手法の構築に向けて、QRコード設置場所の拡充、ガイドシステムの更なる周知、広域周遊含む観光関連データの活用検討といった、今後の取り組むべき課題が明らかとなった。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- 1.上記の成果を踏まえ、引き続き地域協働研究制度を活用し、周遊ログに基づく来訪者調査手法の構築を目指した取組みを進める予定である。
- 2.観光DX推進に資する実践・実証的な研究を進めることで、平泉観光の満足度向上とリピーターの増加を図り、世界遺産のまちの価値向上に繋げたい。



平泉観光の満足度向上とリピーターの増加を図り、
世界遺産のまちの価値向上

研究概念図



町内周遊調査の試み